令和６年度
事業報告

社会福祉法人
下関市社会福祉事業団

事業団総括

令和４年度から令和８年度までの５か年で定めた第３期中期経営計画の中間年度にあたる令和６年度も、引き続き当計画を基本目標として運営を行った。

特に、重点目標の一つである人事制度・給与制度の見直しについては、これまで人事院勧告及び下関市の行政職給料表に合わせて改定していた一般職給料表を初めて据え置き独自の給料表を用いて運営していくこと、またこれまで施設間で不公平が生じることを懸念し取得を見送ってきた処遇改善加算を令和７年度から取得していくことを決定し、第３期中期経営計画に掲げた「管理から経営へ　持続可能な法人運営のために」のスローガンを体現する形となった。

施設の運営に関しては、昨年度と同様、光熱水費・ガソリン・物価の高騰、最低賃金引き上げの影響が大きいため、引き続き安定した経営を目標に各施設の事業を実施した。

(1) 令和６年度理事会の開催状況

開催回数	日付 開催場所	審議内容		出席者数	
		議案番号	議案名	理事	監事
1	R6/4/1 決議の省略	1	常務理事の選定について	7	2
2	R6/5/23 ふくふくこども館	2 3 4 5 6 7 8 9 10	令和５年度事業報告及び決算の承認について 役員候補者の選出について 評議員の選任候補者の推薦について 評議員議員選任・解任委員会の委員の選任について 評議員選任・解任委員会の会議の開催について 定時評議員会の開催について 社会福祉法人下関市社会福祉事業団職員就業規程の一部を改正する規程 陽光苑デイサービスセンター指定地域密着型通所介護事業運営規程の一部を改正する規程 陽光苑デイサービスセンターにおける介護予防・日常生活支援総合事業の指定第１号通所事業運営規程の一部を改正する規程	6	2
3	R6/7/12 決議の省略	11 12 13	役員候補者の選出について 令和６年度第１回補正予算案について 評議員会の招集事項について	6	2
4	R6/11/28 ふくふくこども館	14 15 16 17 18	社会福祉法人下関市社会福祉事業団経理規程の一部を改正する規程 社会福祉法人下関市社会福祉事業団職員就業規程の一部を改正する規程 社会福祉法人下関市社会福祉事業団嘱託職員就業規程の一部を改正する規程 社会福祉法人下関市社会福祉事業団職員服務規程の一部を改正する規程 特定相談支援・障害児相談支援下関市こども発達センター運営規程の一部を改正する規程	6	1
5	R7/3/13 カラトピア C会議室	19 20 21 22 23	令和６年度第２回補正予算案について 令和７年度事業計画及び予算案 施設長の選任について 評議員会の開催について 社会福祉法人下関市社会福祉事業団職員就業規程の一部を改正する規	6	0

			程		
		24	社会福祉法人下関市社会福祉事業団定年再雇用職員就業規程の一部を改正する規程		
		25	社会福祉法人下関市社会福祉事業団嘱託職員就業規程の一部を改正する規程		
		26	社会福祉法人下関市社会福祉事業団給与規程の一部を改正する規程		
		27	社会福祉法人下関市社会福祉事業団職員の育児及び介護休業等に関する規程の一部を改正する規程		
		28	梅花園管理規程の一部を改正する規程		
		29	養護老人ホーム陽光苑運営規程の一部を改正する規程		

（2）令和６年度評議員会の開催状況

開催回数	日付 開催場所	審議内容		出席者数	
		議案番号	議案名	理事	監事
1	R6/6/13	1 2	令和５年度事業報告及び決算の承認について 役員の選任について	6	1
2	R6/7/29 決議の省略	3 4	役員の選任について 令和６年度第１回補正予算案について	8	0
3	R7/3/14 ふくふくこども館	5 6	令和６年度第２回補正予算案について 令和７年度事業計画及び予算案について	6	0

（3）令和６年度評議員選任・解任委員会の開催状況

開催回数	日付 開催場所	審議内容		出席者数
		議案番号	議案名	委員
1	R6/5/23 ふくふくこども館	1	評議員の選任について	3

（4）令和６年度福祉サービスの苦情解決第三者委員の会議開催状況

開催回数	日付 開催場所	審議内容	
1	R7/2/27 ふくふくこども館	1	令和６年度各施設の苦情受付状況とその対応

（5）令和６年度施設連絡協議会の開催状況

月	日　付 開催場所	協議内容
４月	R6/4/23 本部	１　令和６年度重点課題について
５月	R6/5/23 ふくふくこども館	１　退職職員が残した私物の処理について
６月	R6/6/24 本部	１　来年度採用の正規職員に係る採用試験の実施意向について
７月	R6/7/25 ふくふくこども館	１　共催、協賛、後援に係る判断基準について ２　出退勤時遅延の考え方について
８月	R6/8/26 本部	１　最低賃金の引上げについて

９月	R6/9/24 ふくふくこども館	１　最低賃金改定及び人事院勧告に伴う賃金改定について
10 月	R6/10/24 本部	１　施設間及び本部との連携について ２　事業団規程の一部改正について
11 月	R6/11/28 ふくふくこども館	１　施設連絡協議会の会議進行について
12 月	R6/12/26 本部	１　人事院勧告の反映について
１月	R7/1/27 ふくふくこども館	１　自己申告書による職員意見の情報共有について ２　４週間単位の変形労働時間制から１カ月単位の変形労働時間制への転換について ３　外部講師に係る講師料、謝金及び旅費に関する要領の策定について
２月	R7/2/21 本部	１　事業団３０周年記念事業について
３月	R7/3/25 ふくふくこども館	１　事業団研修体系について ２　３０周年記念事業に係る準備委員会について

(6) 令和６年度末職員の状況

職種			事務局長	施設長	診療所長（医師）	事務員	児童指導員	生活相談員（指導員）	保育士	相談支援専門員	作業療法士	理学療法士	言語聴覚士	臨床心理士	言語指導員	介護職員・支援員	看護師・准看護師	管理栄養士・栄養士	調理員	プレイランドスタッフ	自動車運転手	医師	計
前年度末職員数		正規	0	0	1	2	1	6	7	5	1	1	1	2	1	8	4	3	0	0	0	0	43
		嘱託	1	4	0	10	3	1	24	0	1	1	0	3	0	24	5	0	8	5	2	2	94
		合計	1	4	1	12	4	7	31	5	2	2	1	5	1	32	9	3	8	5	2	2	137
年度増減	増	正規									1												1
		嘱託	1			1	1		4	1				1		3		1	2	1	2		18
	減	正規								1								1					2
		嘱託	1			1	1		3		1					1			2		2		12
当年度末職員数		正規	0	0	1	2	1	6	7	4	2	1	1	2	1	8	4	2	0	0	0	0	42
		嘱託	1	4	0	10	3	1	25	1	0	1	0	4	0	26	5	1	8	6	2	2	100
		合計	1	4	1	12	4	7	32	5	2	2	1	6	1	34	9	3	8	6	2	2	142

中期経営計画に基づく重点項目

中期経営計画体系

基本目標１　効率的・安定的な法人経営の推進

(1) 経営基盤の安定化
- ① 経営健全化計画の策定
- ② 将来的な施設整備計画の策定
- ③ 地域の福祉ニーズをふまえた新たな事業展開の検討

(2) 人事制度の見直し
- ① キャリアパス制度、人事考課制度導入の検討
- ② 給与制度の見直しの検討

基本目標２　人材の育成・確保

(1) 人材育成の推進
- ① 人材育成方針の策定
- ② 法人・施設運営を担える人材育成

(2) 人材確保・定着
- ① 職場実習制度の導入
- ② 職員負担の軽減
  - ア　施設・職種ごとの業務マニュアル化の推進
  - イ　ＩＣＴ等を活用した業務の合理化の推進
  - ウ　職員が働きやすい職場環境づくりの推進

基本目標３　提供サービスの質の向上

(1) 法人全般の取組み
- ① 施設ごとの事業継続計画の策定
- ② 入所者・利用者虐待防止等の権利擁護の推進
- ③ 第三者評価受審の推進

(2) 各施設の取組み
- ① 下関市こども発達センター
  - ア　保育所等訪問支援事業の実施による元利用児への支援の推進
  - イ　職員の担当業務のマニュアル化
  - ウ　職員の資質向上のための研修の充実
  - エ　どーなつにおける定員２０名への変更
  - オ　豊浦における地域支援推進
  - カ　診療所における診療日の増
- ② 梅花園
  - ア　定員５０名への変更の検討
  - イ　日中活動支援の充実
  - ウ　地域生活移行に向けた事業展開
  - エ　新規事業展開の促進
  - オ　入園者高齢化への対応強化
  - カ　地域における公益活動の充実
  - キ　業務効率化とワークライフバランスの向上
  - ク　施設建て替えに向けた調査研究
  - ケ　福祉サービス第三者評価受審
- ③ 陽光苑
  - ア　定員１１０名への変更の検討
  - イ　居住環境の改善の推進
  - ウ　入所者の余暇活動の充実
  - エ　デイサービスセンターの営業日拡大
- ④ ふくふくこども館
  - ア　利用促進を図るための多彩な企画の実施
  - イ　子育て相談・援助事業の推進
  - ウ　利用者支援事業の推進

基本目標１　効率的・安定的な法人経営の推進

１．経営基盤の安定化

特になし

２．人事制度の見直し

給与制度の見直しの検討

(1) 本部

令和７年度から介護職員等処遇改善加算の算定を目指し、他の社会福祉法人の支給状況の情報収集や当事業団の支給方法について検討を行い、規程を改正して支給する準備を整えた。

基本目標２　人材の育成・確保

１．人材育成の推進

法人・施設運営を担える人材育成

(1) 本部

人材育成方針に基づき、人材育成計画の素案を作成し、令和７年度の新規採用者に対して、新人研修を実施することとした。

(2) 下関市こども発達センター

部門別に経験段階に応じた内外の研修を継続的に受講するとともに、令和６年４月の改正児童福祉法に記された、児童発達支援センターの機能強化に則って、内外の研修会や勉強会、地域の事業所などへの積極的な支援を通じて役割の明確化を図った。

(3) 梅花園

年間計画に沿って、外部研修への参加と、テーマ別内部研修の担当を受け持ち、専門知識を深めると共に、組織的なスキルアップを目指した。また、個別支援計画作成が義務化されたことに伴い、全国救護施設研修会に参加し、職員間で情報共有した。

令和６年２月に引き続き、６月にも能登半島地震被災地のボランティア活動に職員を派遣し、被災地で取り組んだ災害支援について、事業団内の研修として報告し、ＢＣＰ等対策に役立てた。

(4) 陽光苑

法定研修に取り組む中で、とくに高齢者虐待防止に注力して研修に取り組んだ。

職場内研修についてはグループワーク手法を用い、職員個々が参加できる環境づくりに努めた。

また、資格を有さない職員に対する認知症基礎研修受講を計画的に進めている。

人材育成については、経験学習に留意して職員の業務を分担した。将来的に正規職員が幅広く業務を経験・学んでいけるよう意識して取り組んでいる。

(5) ふくふくこども館

県が実施する子育て支援員研修地域子育て支援コース「地域子育て支援拠点事業」に４名受講させ、職員のスキルアップを図った。

また、相談機能の充実のため、公認心理師を講師とした事例検討会議を年６回行い、相談員のスキルアップを図った。

２．人材確保・定着

職員負担の軽減

(1) 本部

ＩＣＴの活用を推進するため、紙媒体で行っている業務のオンライン化、システム化を施設の職員と研究を進める中で、システム業者の選定や、デモンストレーションを行い、令和７年度の導入に向けてサポートを行った。

(2) 下関市こども発達センター

業務標準の作成については、その必要性や効果、標準化を進めるためのステップ、スケジュール感の認識が土台となるため、業務標準（業務マニュアル）策定指針（案）を作成し、意識の統一化に取り組み始めた。

業務見直し、ＩＣＴ導入等は、相談業務では、相談記録等が手書きであり、重複した作業などの弊害が生じているためシステム導入について検討を行った。

はたぶ園では、連絡帳やケース記録等の記載や保存、災害等の緊急時連絡について、職員の負担軽減や効率的かつ効果的な手法を探るべく、専門業者によるシステムの導入などについて検討を始めた。

(3) 梅花園

令和６年１０月から個別支援計画作成が義務化されたことから、計画内容の充実に着手し、作成手順の確認を行った。

山口県救護施設職員研修においても、個別支援計画の作成状況とＩＣＴ導入について情報交換を行った結果、当施設での生活支援システムの導入を検討している。

また、年２回の夜間職員連絡会議を行い、業務の標準化に取り組んだ。

(4) 陽光苑

ＩＣＴについて事業所内に担当者を設け、研修を随時実施することで職員全体がＩＣＴを学ぶ機会を設けた。情報共有やその迅速性が問われる中で、令和６年度から事業所内の紙データを電子化・共有化する方策を進めている。また、業者を招聘してＩＣＴ機器とその活用について意見交換するとともに、現状に則した機器の導入・活用を計画した。

職員が働きやすい職場環境づくりに関する施設の取組

(1) 下関市こども発達センター

職員相互が尊重し合うことによる精神面の安定が良いサービス提供につながるよう部門別ミーティングの開催頻度を増やすとともに、日常的な声掛けやコミュニケーション機会の確保に努めた。

また、常勤職員の範囲ではあるが、毎月１回実施する職員会議において、伝達研修や、業務内容の説明等の発言機会を設け、お互いを理解し合う意味で意識共有の一助とした。

あわせて、日常的な課題や意見を出しやすい雰囲気づくりのため、朝礼でプライベートや業務の振り返りなどの１分間スピーチに取り組み、ある一定の効果を感じている。

さらに、入職後間もない職員を対象に１ヶ月面談を実施し、精神的なケアとともに定着性の確保、そして、課題解決に結びつけるべく、第三者目線での意見聴取を行った。

(2) 梅花園

メンタルヘルスチェックを年２回行うことで、メンタルヘルスに対する意識向上につなげている。

休暇を取りやすい職場の雰囲気作りを心がけ、互いにフォローする意識を持って業務に当たることができた。

(3) 陽光苑

有給休暇・特別有給休暇体制等、福利厚生は整っているものの職員個々で休暇取得数に偏りが顕著な面が伺えたため、円滑な人間関係と業務執行のための配慮について説明する機会を設けた。
また、業務においてはベテラン職員が経験の浅い職員をフォローするとともに、経験の浅い職員が多岐に渡る業務を経験していけるよう業務の振り分けに留意した。支援員会議等においても事前に議題を募る開催手法を取っているものの、積極的な意見交換に繋がらずベテラン職員に一任してしまうという体制の改善までには至っていない。

基本目標３　提供サービスの質の向上

１　法人全般の取組み

施設ごとの事業継続計画（防災計画等も含む。）に関する取組

(1) 下関市こども発達センター

令和５年度に策定した事業継続計画とあわせ、感染症対策指針、安全計画を関連付けながら研修会や机上訓練を実施した。
事業継続計画実践のためには、まず、意識の醸成から始めることが重要であるため、震災ボランティアに参加した事業団職員による研修会や気象台による、地震・津波を想定したワークショップを行った。実施に当たっては、常勤職員が基本であるが、非常勤職員に対しても同等の意識が根付くように研修記録を全員に配付した。なお、気象台ワークショップは、非常勤職員も参加できるように配慮した。
また、他事業所との情報共有を図るため、自立支援協議会主催による防災士講演会に参加した。
さらに、備蓄品リストの見直しとともに、収納スペースの確保に努めた。

(2) 梅花園

７月に地震想定の初動対応、非常用備蓄品を使って食事を提供する訓練を実施した。
また、令和６年３月から非常時訓練として、月に数回、計２０回調理員２名体制での給食提供を実践した。

(3) 陽光苑

災害および感染症ＢＣＰについて研修および訓練を毎年交互に開催しており、令和６年度は感染症ＢＣＰについての研修・机上訓練を実施した。
令和６年度は新型コロナウイルスおよび感染性胃腸炎の集団感染が発生したこともあり、感染症ＢＣＰの運用を経験することが出来た。今後の課題としてＢＣＰ策定後の更新や実践的な訓練の計画・手法が不透明なため、外部研修を受講してこれらの点を学んでいくことが重要と考える。

利用者の虐待防止等の権利擁護の推進

(1) 下関市こども発達センター

虐待防止委員会及び身体拘束適正化委員会を毎月１回、職員会議とあわせて実施するとともに、外部講師による研修会や内部研修を実施し、年度末の委員会では実績報告とともに、翌年度計画について意識の統一化を図った。
さらに、セルフチェック、ストレス簡易調査に取り組み、分析とフィードバックを行った。

(2) 梅花園

９月に虐待防止の外部研修に参加し、１０月には施設全体での虐待防止研修を行った。

(3) 陽光苑

今年度は出資法人監査にて過年度の高齢者虐待について指摘を受けた。
再発防止を徹底するため、全入苑者へのヒアリングを実施し、年２回の虐待防止委員会を開催した。委員会では虐待防止とともに虐待の定義や通報義務について反復研修を実施するとともに、グループワークにて全職員が参加・発言できるよう手法に工夫を凝らした。また、虐待の芽チェックリストを随時活用するとともに虐待防止意識が風化しないよう職員会議等を利用して虐待防止の徹底を継続して啓発した。

第三者評価受審の推進

(1) 下関市こども発達センター

令和５年１２月に受審した結果、評価のあった点は継続しながら、令和６年度に義務化された障害児通所支援事業の支援プログラム作成過程の中で現状の把握と見直しを行った。
また、改善を求められた点のうち、職員配置や処遇改善、施設の老朽化による市との協議については、本部との円滑な連携を図りながら積極的に推進した。
なお、市との協議については、中長期的な視点のもとで、定期的な情報共有等の機会確保の働きかけを行った。

(2) 陽光苑

第三者評価基準に沿ってガイドラインの更新・策定に継続して取り組んだ。

２　各施設の取組み

各施設の個別課題への取り組み内容

(1) 下関市こども発達センター

① 保育所等訪問支援事業の実施による元利用児への支援の推進
令和６年４月の改正児童福祉法に記された、児童発達支援センターの機能強化に則って、地域のインクルージョン推進の中核として、継続的にはたぶ園から地域の幼保に転園した児へ移行後も定期的に支援できる体制を確保し、生活や行事における児童や園の抱える問題点を解決するための助言を行った。保護者と立てた個別支援計画を半期で中間評価し、後期の支援計画を見直した。
また、保育所等訪問にあわせ、半期に１度サービス担当者会議を実施し、情報共有と支援の充実に努めた。さらに、年度終了のタイミングで園と保護者にアンケートを実施した。

② 職員の担当業務のマニュアル化
業務標準（業務マニュアル）策定指針（案）の作成に着手し、その必要性や効果、標準化を進めるためのステップ、スケジュール感等の共通意識の土台作りを行った。

③ 職員の資質向上のための研修の充実
職員一人ひとりが自らの計画目標を立てて、その目標に沿って計画的に研修を選択して受講し研修の効果を自己評価する取り組みを継続して進めた。研修後は、研修成果や感想を記した研修参加記録票を提出することによる振り返りとともに、管理者との情報共有を図り、参加状況をまとめた分析資料のフィードバックを行った。

④ どーなつにおける定員２０名への変更
定員の削減については、少人数での療育が必要な特性のある利用児が増えていることから、継続して検討をすすめることとした。また、送迎機能を取り入れ等の機能強化のための協議を始めた。

⑤ 豊浦における地域支援推進
サービス担当者会議や学校の運営協議会などに参加した。

不登校の対応については、同じ方向性の支援とするため、必要に応じて保護者と学校、相談支援専門員と協議の場を設けるとともに、日常的に施設へ訪問し、現状確認をした。

(2) 梅花園

① 日中活動支援の充実
入園者全員にクラブ活動（陶芸、茶道、舞踊、合唱）に１つ以上参加することを呼びかけ、１年間を通じて活動の継続を目指した。吉見文化祭出展や開設記念行事など発表の場を設けることで、目標を持ちながら意欲を引き上げ、活動の成果へつなげることができた。

② 地域生活移行に向けた事業展開
③ 新規事業展開の促進
１１月に広島県呉市にある「呉広風園」を視察し、作業所や地域生活移行の取り組みについて調査を行った。

④ 入園者高齢化への対応強化
入園者の加齢に伴う筋力の低下、バランス機能低下への対応として、食堂の昇降テーブルと回転式イスを購入するとともに、必要に応じて歩行器使用、車椅子介助を行った。

⑥ 地域における公益活動の充実
５月の妙寺地区草刈りに参加するとともに、近隣散歩コースの草刈りを行った。

⑦ 業務効率化とワークライフバランスの向上
メンタルヘルスチェックを年２回行うことで、メンタルヘルスに対する意識向上につなげている。休暇を取りやすい職場の雰囲気作りを心がけ、互いにフォローする意識を持って業務に当たることができた。休暇取得率も高い。

⑧ 施設建て替えに向けた調査研究
１１月に広島県呉市にある「呉広風園」を視察するとともに、本部と数回協議を行い、今後のスケジュールについて、検討研究した。

(3) 陽光苑

① 居住環境の改善の推進
年間平均９５名の入苑者数を目標としていたが、新規入苑８名、退苑１２名となり、年度平均９０名と目標に至らず入苑者数が減少した。そのような中で空き居室の個室化を進めており、約４割の入苑者に個室を提供出来ている。新規入苑受入時にも居室の要望を伺い、柔軟な受け入れを行っている。２人居室にもメリットはあるものの、個室利用の長所としてプライバシーの確保とともにベッド等の介護機器の導入の容易さがあることや、人間関係トラブルの緩和にも繋がり入苑者が安定した精神状態で生活を送ることが出来ている。

② 入苑者の余暇活動の充実
入苑者の重度化により講師を招聘してのクラブ活動の参加者が減り、職員主導によるクラブ活動、レクリエーションが中心となっている。
令和６年度から転倒防止と体幹強化を目的に「のびのび快適ボディ作り」体操を週に２回開催し、多くの入苑者が参加している。
また、感染症情報に考慮しながらカラオケやフルート演奏等の慰問受入を行った。
一方で自立度の高い入苑者に対しても感染症情報に配慮しながら、可能な限り面会、外出等の余暇活動の制限をしない方針を取ることで、社会生活を維持できるよう取り組んでいる。

③ デイサービスセンターの営業日拡大
令和６年６月より職員体制が整い、土曜日、祝日を対象に営業日を拡大して運営している。
陽光苑入苑者や地域包括支援センターへの営業活動を行い、新規利用者の確保、利用回数の

増に努めている。また、近隣の老人福祉施設からの利用者を受け入れていたが、年度途中で先方施設の体制変更により利用が出来なくなるという事例が発生した。
　令和６年度は、営業日数の拡大に伴い、営業日は昨年より４９日増加したものの、平均利用者数はデイサービスセンター全体で１日あたり１１．３人に留まっており目標には達していない。
　令和７年度から「個別機能訓練加算(Ⅰ)イ（５６単位/月）」の算定を申請、承認を得ており、今後の方針として利用者数の増とともに、新たな職員体制の下で各種加算の取得に向け、研究を進める。

(4) ふくふくこども館

① 利用促進を図るための多彩な企画の実施
　開館１０周年を記念して、ゆらゆら関門橋のロープを全面張り替えるなどリニューアルし、よりアスレティック性の高いウツボの橋となり、こども達に楽しんでもらった。
　来館者の希望が多い運動系や音楽系及び工作のイベント「運動あそび」、「リトミック・音楽あそび」、「アクティブチャイルドプログラム」、「こどもっとあそぼう」の開催回数を増やすなど意欲的に取り組んだ。
　また、地域の団体の協力を得て、下関かるた協会「はじめての百人一首」、下関書道連盟「もじあそび～はじめての書道」、下関フィルハーモニック「子ども向けミニコンサート」などの特色のある活動にも力を入れた。

② 子育て相談・援助事業の推進
　取り組みの一つとして、「トイレトレーニング」、「ＪＵＭＰで発散！イヤイヤ期」、「ふくファミリーのほっとTime」、「エキスパートに聞きたい」などの相談員が行うイベントを実施し、参加者から悩みなどの相談に繋げられるよう工夫している。
　また、これらのイベントを相談室の中で行うことで相談業務が行われていることの周知も図った。
　継続的な相談が増え、相談内容も複雑化しており、ふくふくこども館だけで抱えておけないような相談ケースもあり、他機関との連携を図った。
　市との定期的な相談連絡会議では､継続的に関わっていく支援のあり方について検討を行い、職員間でのミーティングも増やし、サポート体制の充実を図った。

③ 利用者支援事業の推進
　利用者支援事業を専任させる職員１名だけでなく、その他利用者支援の有資格者を３名、合わせて４名を所属させ、来館者に対して手厚い利用者支援ができたと考えている。

各拠点の数値等実績報告

下関市こども発達センター

支援実績等

❑児童発達支援センターはたぶ園

(1) 年齢別契約児数（令和 7 年 3 月 31 日）

（単位：人）

年齢	３歳	４歳	５歳	６歳	合計
男	0	7	13	11	31
女	0	1	3	3	7
計	0	8	16	14	38

(2) 月別延利用児数

（単位：人、日）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
初日契約児数（人）	38	38	37	38	38	38	38	38	38	38	38	38	—
開園日数（日）	19	21	20	22	17	19	22	20	20	19	18	16	233
延利用児数（人）	644	683	656	710	515	649	761	673	674	635	606	523	7,729

【前年度実績】開園日数 235 日　延利用児数 7,516 人

(3) 卒園児（契約終了児）の進路

（単位：人）

月	就学	転園（保育所等）	転園（他事業所）	転居	その他	合計
人数	14	2	0	0	0	16

(4) 特記事項（例年との変更点を記載しています。）

新型コロナウイルス感染症の沈静化及び怪我などによる長期欠席がいなかったこと、登園意欲向上のため欠席の際の家族フォローを積極的に行ったこと、感染症の発生や荒天時においても、閉園、休園をせずに自由登園にしたことにより、利用者増につながった。

また、一貫した支援をするため多職種等による連携に取り組み、療育参加や相談・アドバイス機会を増やす家族支援による子育てサポート体制強化や、計画性をもった専門的支援、発達特性に応じた給食の提供や摂食について実態把握を行った。

さらに、令和６年４月の改正児童福祉法に記された児童発達支援センターの機能強化に則って、職員の資質向上のための研修機会の増、他事業所との連携体制構築等による、地域の支援体制の充実を図った。

❑保育所等訪問支援

(1) 月別延利用児数

（単位：人、件）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
初日契約児数（人）	2	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	—
延支援件数（件）	1	1	3	3	0	4	0	2	1	3	1	2	21

【前年度実績】延支援件数 41 件

(2) 特記事項（例年との変更点を記載しています。）

はたぶ園から地域の保育所等への移行児を支援対象としていることから、移行児の減少が契約児数の減となる。また、充実した支援に繋げるべく特性を見極めるため、見守り時間を長く設定していることで支援頻度を抑える形となった。

❑地域支援

(1) 支援実績

① 下関市発達支援事業

（単位：件）

職種	理学療法士等	作業療法士等	言語聴覚士等	臨床心理士等	合計
指導件数	420	1,269	687	582	2,958

【前年度実績】延指導件数 2,945 件

② 下関市障害児（者）療育等支援事業

（単位：件）

職種	延支援回数
在宅支援訪問療育等指導事業	3
在宅支援外来療育等指導事業	4,942
施設支援一般指導事業	96
合計	5,041

【前年度実績】延支援回数 4,634 件

(2) 特記事項（例年との変更点を記載しています。）

① 理学療法・作業療法部門

外部講師による感覚統合療法の臨床的な研修に外部の作業療法士も参加し地域おける専門性の向上や連携に繋がるよう努めた。

❑相談支援事業

（障害児相談支援・特定相談支援・一般相談支援・下関市障害者相談支援事業・下関市発達障害児地域支援体制強化事業）

(1) 支援実績

① 障害児相談支援

（単位：件）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
計画作成	128	63	61	81	68	53	60	71	62	36	56	61	800
モニタリング	60	145	70	113	80	166	71	77	95	80	76	81	1,114

【前年度実績】計画作成 783 件　モニタリング 1,035 件

② 特定相談支援

（単位：件）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
計画作成	11	5	1	6	3	2	3	4	4	8	4	5	56
モニタリング	9	9	11	9	6	20	7	3	3	7	5	4	93

【前年度実績】計画作成 52 件　モニタリング 93 件

③ 一般相談支援事業　　支援実績なし

④ 下関市障害者相談支援事業

（単位：人）

区分		相談者数	内訳（重複あり）							合計
			身体障害	重症心身障害	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳機能障害	その他	
障害者	実人数	57	18	1	50	5	27	0	0	101
	延人数	586	221	15	513	30	303	0	0	1,082
障害児	実人数	1,016	14	0	962	0	1,005	0	0	1,981
	延人数	7,512	122	0	7,160	0	7,390	1	0	14,673

【前年度実績】障害者延相談人数 1,173 人　障害児延相談人数 15,272 人

④ 下関市発達障害児地域支援体制強化事業

ア　ペアレントメンター相談会開催状況

（単位：人）

開催日	参加者			合計
	メンター	相談者	支援者等	
4月12日	5	8	8	21
5月10日	6	3	2	11
6月14日	6	5	2	13
7月12日	5	4	2	11
8月9日	5	4	1	10
9月8日	6	3	3	12
10月13日	5	6	3	14
10月18日	2	1	1	4
11月10日	6	2	2	10
12月13日	5	5	1	11
1月10日	6	4	1	11
1月17日	2	1	1	4
2月14日	5	8	3	16
2月28日	2	3	1	6
3月14日	4	5	2	11
合計	70	62	33	165

【前年度実績】参加者 150 人

イ　支援者養成研修開催状況

（単位：人）

開催日	内容（テーマ・講師等）	参加者			合計
		メンター	支援者	その他	
4月26日	気になる子・障害のある子どもの支援連携会議	1	61	5	67
6月27日	就学に関する説明会	2	16	136	154
7月2日	はたぶ園等職員向け研修会①　第１回	0	10	0	10
7月5日	はたぶ園等職員向け研修会②　第１回	0	11	0	11
7月26日	ティーチャーズ・トレーニング（園Aグループ）第1回	0	33	0	33
7月29日	はたぶ園等職員向け研修会①　第２回	0	11	0	11
8月4日	はたぶ園等職員向け研修会②　第２回	0	13	0	13
8月6日	ティーチャーズ・トレーニング（園Bグループ）第1回	0	24	0	24
8月26日	はたぶ園等職員向け研修会①　第３回	0	11	0	11
8月27日	ティーチャーズ・トレーニング（園Aグループ）第2回	0	31	0	31
9月4日	ＯＢ勉強会	2	1	32	35
9月5日	ティーチャーズ・トレーニング（園Bグループ）第2回	0	31	0	31
9月20日	ティーチャーズ・トレーニング（園Aグループ）第3回	0	34	0	34
9月25日	はたぶ園等職員向け研修会①　第４回	0	10	0	10
9月27日	はたぶ園等職員向け研修会②　第３回	0	12	0	12
10月9日	ティーチャーズ・トレーニング（園Bグループ）第3回	0	24	0	24
10月25日	ティーチャーズ・トレーニング（園Aグループ）第4回	0	28	0	28
10月27日	子どもの発達支援体制整備事業講演会	3	110	0	113
10月29日	はたぶ園等職員向け研修会①　第５回	0	11	0	11
11月1日	はたぶ園等職員向け研修会②　第４回	0	10	0	10
11月6日	ティーチャーズ・トレーニング（園Bグループ）第4回	0	25	0	25
11月29日	はたぶ園等職員向け研修会②　第５回	0	11	0	11
11月29日	ティーチャーズ・トレーニング（園Aグループ）第5回	0	31	0	31
12月11日	ティーチャーズ・トレーニング（園Bグループ）第5回	0	25	0	25
12月18日	気になる子・障害のある子どもの支援連携会議	1	65	4	70
合計		9	649	177	835

【前年度実績】開催日 6 日　参加者 301 人

（2）特記事項（例年との変更点を記載しています。）

障害児相談支援における計画作成やモニタリング数は増加しているため、専任５人の相談支援専門員それぞれが抱えるケースも年々増加傾向にあるが、複合・複雑化した支援ニーズに対応し、専門性の高い支援を実施するため、強度行動障害支援者養成研修や医療的ケア児等コーディネータ養成研修など積極的に受講した。

また、令和５年度に県から下関市に移管された下関市発達障害児支援体制強化事業が２年目となり、ペアレントメンター相談会の認知度の向上とともに相談者数も増加傾向にある。

さらに、定期的な相談会以外にも依頼を受けるなど、ペアレントメンターの重要性も高まっている。

❑地域連携（こどもの発達支援体制整備事業）

（1）支援実績

① キッズハウス

（単位：日、組）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開催日数	4	5	4	4	4	4	5	4	4	4	4	2	48
延利用組数	10	22	18	21	15	22	22	22	17	18	18	10	215

【前年度実績】開所日数 47 日　延利用組数 206 組

（2）特記事項（例年との変更点を記載しています。）

令和5年度までは在宅障害児療育支援事業として県から受託し実施してきた事業が廃止され、新たに「こどもの発達支援体制整備事業」を新たに受託することとなった。併せてサービス区分の名称も「地域連携」という名称に変更した。

当事業では、令和6年4月の改正児童福祉法に記された児童発達支援センターの機能強化に則った地域の支援体制の充実における発達支援に関する入口として、1組あたりの相談時間を確保した上で継続的に取り組んだ。

下関市こども発達センターどーなつ

支援実績等

（1）月別延利用児数

（単位：人、日）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
初日契約児数（人）	83	108	110	114	119	124	124	127	128	128	128	128	—
開所日数（日）	17	21	20	22	17	19	22	19	20	19	18	14	228
延利用児数（人）	272	379	367	393	321	377	434	397	391	349	331	296	4,307

【前年度実績】開所日数 233 日　延利用児数 4,004 人

（2）特記事項（例年との変更点を記載しています。）

利用児が過ごしやすく、円滑かつ効果的な療育環境を設定するため、曜日によっては同時間帯に未満児と年中児グループを作り、活動内容や課題を変えて対応するなど成長に応じた適切な支援に努めた。

また、親子遊びと摂食指導を行うため、未満児を主に毎週１回、親子療育と弁当グループを設定した。摂食指導については、他職種との情報共有のもとで評価を行いながら、発達段階に応じた安全な食形態と食習慣定着のための工夫に努めた。

このような見直しが、地域のニーズに応え、定員の維持・確保につながっていると考えられるものの、ここ数年、未満児の増加などに伴って個別での対応が必要となっており、週２回の利用希望の受け入れが難しくなってきている。そのため、週１回の利用に制限するなど受入体制の見直しが必要となっている。

下関市こども発達センター豊浦

支援実績等

❑児童発達支援

(1) 月別延利用児数

（単位：人、日）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
初日契約児数（人）	8	9	10	13	12	11	12	12	13	15	17	17	―
開所日数（日）	19	21	20	22	17	19	22	20	20	19	18	19	236
延利用児数（人）	40	49	54	56	46	52	57	59	58	53	62	58	644

【前年度実績】開所日数 236 日　延利用児数 859 人

(2) 特記事項（例年との変更点を記載しています。）

就労している保護者が増加しているため、在籍している近隣のこども園への送迎を積極的に行ったが、保育所等の行事や感染症により利用者増加には繋がらなかった。
また、地域のこども園を中心に担当者会議等に参加し積極的な支援を行った。

❑放課後等デイサービス

(1) 月別延利用児数

（単位：人、日）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
初日契約児数（人）	26	31	33	35	35	35	35	35	35	35	35	34	―
開所日数（日）	20	21	20	22	17	19	22	20	20	19	18	19	237
延利用児数（人）	89	118	120	133	79	102	117	109	106	98	107	103	1,281

【前年度実績】開所日数 236 日　延利用児数 940 人

(2) 特記事項（例年との変更点を記載しています。）

児童発達支援利用児が引き続き、放課後等デイサービスを利用するケースが多いため、児童発達支援より放課後等デイサービス利用児が増加傾向にある。
不登校及び就労先との連携を含み就労移行支援を行った。
また、地域の支援学校を中心に会議等に参加し、積極的な支援を行った。

梅花園

支援実績等

(1) 月別入園者数（各月初日）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	月平均
入園者数	49	49	50	49	50	50	50	50	51	50	48	48	594	49.5
入園	0	1	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	4	—
退園	0	0	1	0	0	0	0	0	2	2	0	0	5	—

【前年度実績】入園４人　退園３人　月平均 49.1 人

(2) 措置機関別入園者数（令和７年３月 31 日現在）

（単位：人）

措置期間	下関市	宇部市	山口市	防府市	下松市	合計
人数	40	3	3	1	1	48

(3) 年齢構成（令和７年３月 31 日現在）

（単位：歳）

区分	21-30歳	31-40歳	41-50歳	51-60歳	61-70歳	71-80歳	81-90歳	91歳以上	合計	平均
男性	1	1	2	9	10	7	3	0	33	63
女性	0	0	1	3	1	8	1	1	15	71
計	1	1	3	12	11	15	4	1	48	66

(4) 在園期間の状況（令和７年３月 31 日現在）

（単位：人、日）

区分	1年未満	1-5年	6-10年	11-15年	16-20年	21年以上	合計	平均
男性	2	9	11	3	5	3	33	9年1カ月
女性	0	2	4	3	3	3	15	15年1カ月
計	2	11	15	6	8	6	48	11年1カ月

(5) 障害等の状況（令和７年３月 31 日現在）

（単位：人）

区分	身体障害	知的障害	精神障害	知的・身体障害	知的・精神障害	身体・精神障害	身体・知的精神障害	その他疾病	障害なし	合計
男性	3	4	13	1	5	0	0	4	3	33
女性	1	4	6	0	0	0	0	3	1	15
計	4	8	19	1	5	0	0	7	4	48

(6) 特記事項（例年との変更点を記載しています。）

① 支援状況

年度当初は４９人でスタートし、入園４人、退園５人、月初の平均４９.５人で、当初計画で見込んでいた４９人を達成することができた。年間延べ人数１７,２３８人、前年比で６７人増、約０.４％増となっている。

入園理由は、生活困窮による緊急的な相談受け入れが主であったが、市と連携して柔軟に受け入れ対応することができた。しかしながら、緊急入園したものの集団生活が合わず、無断離園し、退園に至ったケースが２件あった。

② 年間行事

年間計画に沿った季節行事を実施したほか、入園者のリクエストに応じた外出行事（火の

山ロープウェイ、海響館、レノファ山口サッカー観戦など）を企画した。夏祭りではキッチンカーを２台呼び、目新しい楽しさを演出することができた。
　また、慰問の受け入れを再開してミニコンサートを２回実施し、会場は手拍子や歌で一体感が生まれ入園者の癒しの時間となった。

③ クラブ活動
　入園者全員にクラブ活動（陶芸、茶道、舞踊、合唱）に１つ以上参加することを呼びかけ、１年間を通じて活動継続を目指した。吉見文化祭出展や開設記念行事など発表の場を設けることで、目標を持ちながら意欲を引き上げ、活動の成果へとつなげることができた。

④ 軽作業
　月１回の全員作業では、園内清掃や草取りなど敷地内の美化活動に取り組んだ。園芸作業では、花壇の手入れや畑で季節の野菜を育て、世話をした植物の成長や収穫を楽しむことができた。収穫した野菜を自分達で調理して味わうことも、貴重な体験となっている。
５月には収穫した玉ねぎを地域住民の方に配布し、地域交流として喜んでもらえた。

⑤ 就労体験
　陽光苑のトイレ清掃に５名、近隣の東洋リネンへの職業体験に４名が、継続的に参加しており、責任感と意欲的に取り組むことを学び、自立した生活へのステップとして大きな役割を果たしている。

⑥ 地域交流
　５月の妙寺地区草刈り、１０月の吉見文化祭作品出展、３月の毘沙ノ鼻ウォーキングなど、地域行事に積極的に参加した。
　また、６月には市立考古学博物館の出前講座「勾玉づくり」を実施。梅花園に居ながら、ものづくりの学習体験ができ、石を削る作業が面白く、大変好評を得ることができた。

⑦ 災害支援
　国より能登半島地震発生に伴う介護職員等の派遣依頼があり、昨年度に続き、職員１名を派遣した。
・派遣期間　令和６年６月１４日(金)～６月１６日（日）
・活動場所　地域生活支援事業所「ウミュードゥソラ」
・活動内容　福祉避難所のおける生活支援業務

⑧ 課　　題
・定員充足率向上を目標とした安定的な運営の取り組み
・築３９年を経過する中、将来の建替えに向けた調査研究を進めるため、１１月に広島県呉市にある「呉広風園」を視察した。
　現在地での建て替えには多くの問題があり困難であることから、移転建替えの土地確保と、自己資金の積み立てが喫緊の課題である。

陽光苑及び陽光苑デイサービスセンター

支援実績等

❑養護老人ホーム

(1) 月別入苑者数（各月初日）

（単位：人）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	月平均
入苑者数	88	90	92	92	93	93	92	92	88	86	86	84	1,076	89.7
入苑	2	2	1	1	1	0	1	0	0	0	0	0	8	－
退苑	0	0	1	0	1	1	1	4	2	0	2	0	12	－

【前年度実績】入苑 8 人　退苑 14 人　月平均 94.4 人

(2) 措置機関別入苑者数（令和 7 年 3 月 31 日現在）

（単位：人）

措置期間	下関市	長門市	萩市	合計
人数	77	6	1	84

(3) 年齢構成（令和 7 年 3 月 31 日現在）

（単位：歳）

区分	60-64	65-69	70-74	75-79	80-84	85-89	90歳以上	合計	平均
男性	0	4	11	13	11	4	0	43	77
女性	0	0	3	4	12	9	13	41	86
計	0	4	14	17	23	13	13	84	81

(3) 在苑期間の状況（令和 7 年 3 月 31 日現在）

（単位：人、日）

区分	1年未満	1-5年	6-10年	11-15年	16-20年	21年以上	合計	平均
男性	1	15	15	9	3	0	43	8年1ヶ月
女性	6	16	12	6	1	0	41	7年4ヶ月
計	7	31	27	15	4	0	84	7年7ヶ月

(2) 特記事項（例年との変更点を記載しています。）

① 支援状況

入苑者の長期在苑を図るため、介護サービス利用の提案を積極的に行うとともに個室提供やベッド導入等により個々に応じた居室環境の提供に努めた。また個々の性格や嗜好に沿ったケアプランを立案・実施することで自由度の高い生活が送れるよう支援を行った。

また、ＩＣＴにて業務の効率化と情報共有を図るため、施設内データの電子化・共有化を進めている。

② 年間行事

地域との連携に努め、地区祭りの共催や敬老祝賀会への地域高齢者の招待を計画していたものの、感染症により敬老祝賀会への招待は中止となった。その他の年間行事は予定どおり開催できた。また、職場内の研修においては虐待防止研修に特に注力し、意識改善の啓発に取り組んだ。

③ クラブ活動

講師を招聘した大正琴クラブや職員が講師を担う他クラブ活動を精力的に実施し、機能維持と離床に取り組んだ。

グラウンドゴルフクラブにおいては地域との対抗戦や県老人ホーム大会に参加し、好成績

を収めている。
　また、入苑者の事故の大半を占める転倒に対して、筋力増加やバランス保持に繋がるよう体幹体操の導入を始めた。

④ ボランティア受け入れ状況
　外部慰問受入については感染リスクへの懸念から受入回数を調整した。その中でカラオケ慰問やフルート奏者のコンサートは入苑者に好評を博した。

⑤ 健康管理
　令和６年度は新型コロナウイルスおよび感染性胃腸炎の集団感染が発生したが、ＢＣＰに沿った対応を行い、重篤者の発生なく感染終息を迎えることが出来た。日常生活においては感染リスクの軽減を図るための外出制限等を行いながら感染予防に取り組んだ。
　その他、嘱託医との連携強化に取り組み、変調のある入苑者に対して迅速に相談・受診できる体制づくりに努めた。

⑥ 課題
　新規入苑者の減が数年にわたり顕著となり運営を圧迫している。新規入苑においては、措置入苑による入苑申請の煩雑さや施設の老朽化に入苑拒否されるケースもあり獲得に苦慮している。また、入苑者数に応じた職員体制の検討が施設に一任されていることも運営改善が困難な要因のひとつと考える。施設においては、柔軟な見学者受入とともに入苑受入の幅を拡大していくために触法者受入の研修に参加し、面接に応じる等の対応を行っている。
　また、安定した運営を図るために措置費改定も重要な課題と考えており、令和６年度に措置費額計算シートが国から各措置機関へ提示されたことから計算式に基づいた措置費額改定に期待を寄せている。
　その他、施設が老朽化した状態で施設譲渡を受けているため、エレベーター更新をはじめとする大規模修繕や将来的な立替の問題が残っている。どちらにおいても施設単体で執行することは不可能であるため行政との協議を重ね、具体的な方針を導くことが必要と考える。

❑下関市権利擁護を要する高齢者短期宿泊事業、下関市生活支援短期宿泊助成事業

(1) 利用実績

（単位：人、日）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
延利用人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
利用日数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

【前年度実績】延利用人数０人　利用日数０日

(2) 特記事項（例年との変更点を記載しています。）

　令和６年度の利用実績は０人であったが、地域包括支援センター職員からの相談には柔軟に応じ、受入の準備を常時整えていた。また、虐待や災害による避難等の事由で利用されるケースを想定し、職員研修を実施した。

❑陽光苑デイサービスセンター

(1) 支援実績

① 地域密着型通所介護

（単位：人）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開所日数	21	21	25	22	27	25	27	26	24	24	24	26	292
延利用者数	221	216	276	239	270	249	311	286	266	229	253	273	3,089
１日平均	10.5	10.3	11.0	10.9	10.0	10.0	11.5	11.0	11.1	9.5	10.5	10.5	10.6

【前年度実績】開所日数 243 日　延利用者数 2,937 人　１日平均 12.0 人

② 介護予防・日常生活支援総合事業

（単位：人）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開所日数	21	21	25	22	27	25	27	26	24	24	24	26	292
延利用者数	17	20	21	16	19	13	20	18	15	13	12	11	195
１日平均	0.8	1.0	0.8	0.7	0.7	0.5	0.7	0.7	0.6	0.5	0.5	0.4	0.7

【前年度実績】開所日数 243 日　延利用者数 375 人　１日平均 1.5 人

(2) 特記事項（例年との変更点を記載しています。）

令和６年６月より土曜日・祝日を対象に営業日を拡大した。併設施設の感染症集団感染により開所日数減となった月もあったが、ＢＣＰに沿って概ね開所日数を確保することが出来た。

地域密着型通所介護においては、新たに近隣施設である春光苑と業務委託契約を締結し受け入れを行ってきたが、利用者数は年間平均１０．６人／日に留まっている。また、上記の業務委託契約についても先方施設の体制変更により令和６年度をもって契約終了となった。

介護予防・日常生活支援総合事業においては、要介護への移行等の理由により登録者数の減少が顕著であり、利用者数は年間平均０．７人／日となった。当事業の介護報酬の単位は低く、収入面ではなく将来的な地域密着型通所介護の利用者確保を前提とした事業として運営した。

デイサービスセンターでは、地域密着型通所介護の介護報酬が収入の軸となるため、陽光苑との連携強化はもとより、地域利用者の新規確保が課題となる。外部への情報発信・営業活動を強化するとともに、利用者の体調不良や家族都合等にも柔軟に対応して受入の幅を拡大していくことが求められる。

また、適切な職員配置の検討とともに、各種加算を研究・取得して接遇の質と収入増を図っていくことが必要である。

ふくふくこども館

支援実績等

(1) 利用実績

① 延利用者数

（単位：人）

利用場所	令和６年度	令和５年度	令和４年度
プレイランド	112,308	114,486	87,093
多目的室	6,466	5,117	3,200
こども一時預かり室(申請者含む)	804	957	659
交流スペース・屋上	2,294	7,401	4,737
（重複利用に係る調整）	-3,474	-3,984	-2,079
合計	118,398	123,977	93,610

② プレイランド

（単位：人）

区　　分	令和６年度	令和５年度	令和４年度
大人	56,159	57,349	43,473
未就学児	52,225	53,344	41,343
その他の子ども	3,924	3,793	2,277
合　　計	112,308	114,486	87,093

③ 多目的室の利用状況

（単位：件、時間、人）

内訳	種類	貸室利用	（うち減免）	事業利用	指定管理利用	合計	令和5年度	令和4年度
件数	全室	25	(15)	52	31	152	147	132
	大	13	(1)	0	5			
	小	26	(3)	0	0			
時間	全室	123	(76)	84	50	425	423	333
	大	55	(3)	0	10			
	小	103	(6)	0	0			
人数	全室	1,244	(756)	1,964	296	6,466	5,117	3,200
	大	803	(39)	0	39			
	小	2,120	(67)	0	0			

④ 子ども一時預かり室の利用状況

ア　利用人数実績

（単位：人）

年度＼年齢	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	合計
令和６年度	65	164	117	71	12	17	5	451
令和５年度	116	218	101	28	20	12	9	504
令和４年度	73	118	72	44	15	19	12	353

イ　利用時間数実績

（単位：時間）

年度＼月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
令和６年度	93	94	88	53	95	103	83	94	136	75	116	125	1,155
令和５年度	120	75	83	93	85	97	113	102	113	103	166	156	1,306
令和４年度	46	33	82	41	74	45	86	68	109	98	85	108	875

⑤ 相談室受付実績

（単位：件）

年度＼方法	巡回	個別	電話	メール	合計
令和６年度	474	126	30	2	632
令和５年度	896	189	111	0	1,196
令和４年度	1,149	333	153	0	1,635

⑥ 基本事業の実施状況

（単位：回、人）

種別	事業項目	プログラム数	実施回数	人数		
				大人	子ども	合計
交流の場提供・促進事業	クリエイティブプログラム	2	12	708	1,100	1,808
	アクティブプログラム	2	12	288	358	646
	いのちふれあいプログラム	1	1	20	21	41
子育て相談・援助事業	一般子育て相談・指導	1	309	632	0	632
	専門相談	1	6	33	29	62
子育て情報発信事業	子ども・子育て情報収集・発信	1	309	—	—	—
	子育てに関する市民団体の情報発信の場の提供	1	309	—	—	—
子育て支援事業	子育て・親育ちプログラム	12	27	399	366	765
	大規模子育てイベント	2	12	1,239	1,201	2,440
子育て拠点事業	子ども一時預かり事業	1	309	353	451	804
	ボランティア・サポーターの育成	0	0	0	0	0
地域活力増進事業	地域交流の促進	3	7	159	160	319
	ボランティア・サポーターの支援	1	16	314	329	643
	他機関との連携事業の企画・実施	1	4	80	82	162
	郷土文化ふれあいプログラム	2	8	285	297	582
利用者支援事業	子育て支援に係る情報の集約及び提供	1	309	—	—	—
	子育て支援に係る関係機関との連携調整	3	5	27	25	52
	子育て等に関する相談・援助	4	75	1,183	1,205	2,388
	子育て支援に関して、広く周知を図るための広報、啓発活動	1	49	709	749	1,458
利用推進事業	幅広い広報活動	4	—	—	—	—
合計		44	1,779	6,429	6,373	12,802

⑦ 自主事業の実施状況

（単位：回、人）

種別	事業項目	プログラム数	実施回数	人数		
				大人	子ども	合計
交流の場提供・促進事業	本格！ものづくりプログラム	4	5	68	80	148
	本格！習い事プログラム	3	6	33	21	54
子育て支援事業	ベビータイム	2	4	58	56	114
	ママタイム	1	2	10	0	10
	パパタイム	1	1	3	4	7
地域活力増進事業	プロフェッショナル連携プログラム	1	1	9	16	25
	郷土ふれあいプログラム	1	1	11	13	24
	地域子育て底上げプログラム	1	1	70	75	145
利用促進事業	利用者の利便性の向上	1	309	—	—	—
	子育て家庭応援プロジェクト	1	309	39	0	39
合計		16	639	301	265	566

（2）特記事項（例年との変更点を記載しています。）

開館１０周年を記念して、ゆらゆら関門橋のロープを全面張り替えるなどリニューアルし、よりアスレティック性の高いウツボの橋として、こども達に楽しんでもらった。

下関市こども発達センター診療所

支援実績等

（1）診察実績

（単位：人）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開所日数	18	18	18	20	15	15	18	18	18	17	16	18	209
総受診者数	271	242	276	301	225	224	266	233	237	236	228	273	3,012
新規患者数	22	6	10	8	3	10	10	5	10	11	7	10	112

【前年度実績】開所日数 206 日　総受診者数 2,808 人　新規患者数 147 人

（2）特記事項（例年との変更点を記載しています。）

昨年度に比べて総受診者数は、7.2%増となった。

受診希望者が増え続けており、新規患者の受診は早くても３～４カ月待ちの状況となっている。早期支援につなげるため、診療時間の確保に懸命に取り組んでいるが、医師１名体制では限界を迎えている。

※社会福祉法第５９条第１号に基づき報告する令和６年度事業報告の附属明細書については、事業報告の内容を補足する重要な事項がないため、作成していない。